



Title	1960年1月の安保条約改定時の朝鮮半島有事の際の戦闘作戦行動に関する「密約」に係る調査関連文書No.4(118 外務省外交史料館レファレンス番号 : H222088)
Author(s)	-
Citation	平成22年度外交記録公開(3)No.5 公開日 : 平成22年12月22日 外務省外交史料館管理番号 : 2010-6440 CD・DVD番号 : H22-013
Issue Date	
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43880
Rights	外務省外交史料館所蔵資料



118

極秘

次長

平野局長

通商課長

三浦課長

条約課長

朱保長

朱北長

沖繩通商問題 (7+10、11/10/70)

83.9.12

朱北長

11日官席上2両名が別々で取り合ひして決り合ひ
(11日午後能登島で打ち合ひ、(北米関係者との打ち合ひ) [8/24/70])

1. 問題の取次理由

(1) 12月の政策包圍網の取次理由

双方の37右等々を話し合ふ (2、10)

(2) 明年中央政 総理が訪米し折大総領と

本格的に discuss する。その時期は6月位から (15-1)

よりとする。何と云ふか折大総領が下宿国で (の補判)

折大総領が折大総領が訪米する時期は

1961年池田総領訪米は正々とした時期に

GA-5

外務省

局長直轄で米大入りの一部です

2

当り 4年折大総領自身(朱保長)の上11月15日
に打ち合ひの結果加わった。他11月3-

(もそのほか打ち合ひして決り合ふ。例
24 10~11月 - 打ち合ひの上。(5)

2. 基地の整理 (11/10/70) (朱保長)
問題は打ち合ひするまで、自由使用 (4/15/70)

打ち合ひの結果は、何と云ふか若し英米は
しるべきである。打ち合ひの結果は、打ち合ひの結果は

問題は打ち合ひして決り合ふ。他方核 (12/12/70)

平常は常態 (打ち合ひの結果は、打ち合ひの結果は)

打ち合ひの結果は、打ち合ひの結果は absolute

Minimum である。打ち合ひの結果は、打ち合ひの結果は

打ち合ひの結果は、打ち合ひの結果は

3. 通商交渉の日程

GA-6

外務省

(1) (11月17日) 11月17日という返還目標日を設定
 したことが交渉を促進したという点がある。

何となく(1) 目標日という圧力による交渉の促進
 軍人に抑えつたことなどがあろう。(2) 越境地
 の懸念、特に核の汚染による目標日までに使用
 されないという期待は余程強かった。越境地
 への核の移入はどうか?

このように交渉の促進はあつた。

この4年4月半はgive and takeを繰り返した。

(2) (交渉) 返還実現の相当長期向かい
 ことと覚悟するべきで、大目玉として、筆削りの習慣
 (世間の交渉の中で自己満足)

この政府の最高指導部が常に理解するよう努力
 当局が政治的に説明したとある。(従来
 筆削りばかりで、甲府當局が上層部を苦し
 めた。この結果、この説明には、今後何年か
 経たないと、11月17日という目標日設定は
 ないといふこと)

この中、沖縄の人心に impatience を起す
 のみであると思う。